

発表者氏名： 平本 洋康

所属学校： 小学校

派遣職種： 小学校教諭

派遣国： バングラデシュ人民共和国

派遣先： コックスバザール市

タイトル： バングラデシュにおける隊員活動と今

キーワード：

発表要旨：

私は、バングラデシュ南西部に位置するコックスバザール市の郡リソースセンターという教員の研修機関に配属され、そこにおいて開催される教員向け研修にて、教授法・教科指導法・教材開発の指導・授業提案・付属小学校ならびに近隣の村々の小学校を回り子供たちの支援をしていました。また、日本とバングラデシュの子供たちの交流を目的とした、JICA ネット衛星を経由したインターネットライブ授業も行い、それに先立ち日本の子供たちに向けて月に一度ニュースレターを配信していました。そのほか、「文部科学省の拠点システム事業に関わる現地調査」の研究協力で、「ハンズオン教材」の有効性を確かめる研究授業公開を他の教育隊員と協力して行いました。

時間のある時には、学校に行くことができない、勤労児童のために市場での青空教室も行っていました。

また、要請内容の一つにサイクロンに関する防災教育があげられており、昨年のサイクロン被害の教訓を受け、防災教育啓発活動も行いました。バングラデシュ国は何度もサイクロンの被害にあっているのに、人々には災害に対する知識も備えもなく、また、全ての人が学校に行っているわけではないため、重要な情報が伝わりにくい厳しい状況にあります。人々にとってどのような啓発が有効なのか試行錯誤しつつ「サイクロン防災カレンダー」を他の隊員と協力して作成しました。一番の「災害弱者」は貧しい人々であるので、状況を考え、一人一人にカレンダーの使い方を説明をして、配って歩きました。

このような活動を終え、平成20年4月から職場に復帰し、現在は「北海道国際理解研究協議会」に所属し、勤務校の国際理解教育の推進、日本赤十字などからの要請を受けての公演などを、国際協力を経験した立場から、行っています。

URC(郡リソースセンター)にて、教員のトレーニングで停電の中、ろうそくを持って夜の6時ごろ、繰り下がりの引き算の問題を説明しているところです。

